

埼葛退職校長会報

第 56 号

令和元年12月発行

発行責任者
相澤勝寿

心豊かに

—写真に魅せられて—

埼葛退職校長会

副会長 小島 廣 司

「若い頃と年配になってからは、同じ色を見ても鮮やかさが違って見える。彩度を抑えた写真にしよう」月例会で関東本部委員長の佐藤親正講師が、ひとり三点の作品を和やかな雰囲気の中で講評する。

カメラ歴はまだ六年目だ。偶然退職校長会の先輩から、写真クラブを立ち上げるのでメンバーにならないか、というお誘いを受け入会した。さっそく一眼レフカメラを購入し、夢中になっていった。

それまで、好きな旅行で綺麗な風景や孫のかわいい姿を記録に残したいと写真を撮ることはあつた

が、真剣に学んだことはなかつた。

写真を始めてから一年近く経つたある日、オーロラを観るためにアラスカへ。綺麗なオーロラをカメラに収められたらと淡い期待をもつて旅立つ。二日目、空の四方八方から緑・黄・オレンジ・紫など色とりどりのオーロラに遭遇するも作品にならず惨敗。今から考えると暗闇の中、絶えず動いている淡い光のカーテンを捉える技術が伴わず、駆け出しのアマチュアカメラマンにとつては無謀な挑戦であつた。

旅行が好きで、かつては気軽に散策を楽しんでいた。今では、漠然と景色を見るのではなく、時間をかけて注意深く眺めながら、歩くようになった。

カメラがないときは「綺麗だなあ」と思うだけだった夕焼けは、時間とともに様々な色に変化することに気付いた。

カメラを趣味にすることによつて「何を、どのように撮るか」そのための「カメラの設定は」と試

特集

埼葛地区現職・退職校長教育推進協議会
班活動状況

行錯誤しながら作品を創る楽しさを味わっている。

「偶然の奇跡の一瞬を撮りたい」だから、明日の天気が気になるし、紅葉の色づき具合も気になる。

写真を撮る一連の過程においてその時々のが充実する。そして、心豊かな人生を歩むことができると思つている。

範は、歴史にあり

東部地区教育長協議会
会長 山西 実

かせております。皆様のこれまでの御尽力に対し、心から敬意と感謝の意を表します。

近年、情報化やグローバル化の進展、少子高齢化や絶え間ない技術革新などにより加速度的に激変する未知なる社会を心豊かにたくましく生き抜いていける子どもへの育成が急務です。改訂された学習指導要領においても、主体的に様々な事象に向き合い、他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓く未来の創り手となる資質能力の育成を求めています。また、教職員の働き方改革も待たなしの状況にあり、あるべき学校像を明確にし、教育行政も校長もリーダーシップを発揮し、国民の負託に応えられる学校づくりを強力に推進しなければならぬ時であるとの認識しております。また、より良い教育の実現には、教育行政がその責任を果たすとともに、各教育現場において、地域の総合力を発揮していただくことが不可欠です。

「範は歴史にあり」と言われまです。複雑で予測困難な時代であるからこそ、教育界の大先輩である皆様の帝王学に基づいた理念と叡智で後進へのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

理事会報告

令和元年度第一回理事会が一月四日に開催されました。相澤会長あいさつ・報告

○ラグビーワールドカップの日本チームの活躍は目覚ましく、勇気づけられました。本会も理事・会員の創意と工夫で活動が充実して来ており、感謝しています。

○県支部長会報告

県退職校長会総会は現在一二名に一人の代議員により議決していますが、一五名に一人に削減し、旅費等の削減を図ることにしました。次年度の総会は熊谷市で開催予定。

定年退職校長全員の加入を目指して活動を推進します。埼葛支部として新たに加入案内を作成しました。五年毎に作成している県会員名簿は個人情報保護の観点から、住所・電話番号を省いた全員配布用と役員用に分けて作成。役員用は各班に五部配布予定。

○「彩の国教育の日」協賛埼葛地区現職・退職校長教育推進協議会の開催について

次第・懇親会・案内状発送・予算執行・各市町PTA連絡協議会長へ案内。

○その他

現職・退職校長教育推進協議会開催担当市町は、久喜市↓三郷市↓幸手市。市町研修担当市町は、蓮田市↓宮代町↓八潮市↓白岡市。その後、報告事項として各部会代表者から部会活動報告がなされました。

小学校教育の現状と課題

埼葛小学校長会

会長 榎本 隆

元号が令和となり、埼葛小学校長会では、一二市町の各地区理事・各専門部長・本部から成る組織体制のもと、各会員の校長先生方の御尽力により、教育課題の解決に向けた取組が行われています。

小学校では、令和二年度からの学習指導要領の改訂に伴い、その趣旨・目標・内容の達成・実施が求められています。具体的には、新しい時代に必要となる資質・能力の育成、そのための主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善、授業時数の確保などが、大きな課題となっています。また、教職員の指導力向上と人材育成、働き方改革など、多岐多様にわたる学校経営が校長の責務となつていきます。

こうした中、埼葛小学校長会で

は、組織的活動をとおして「新たな知を拓き、人間性豊かな社会を築く、日本人の育成を目指す小学校教育の推進」に取り組むとともに、「豊かな学びで未来を拓く埼玉教育」の実現に努めています。特に、次の三点(概要)を努力事項としています。

①「主体的・対話的で深い学び」など、創意ある教育課程の編成・実施・評価・改善

②いじめ・不登校の根絶をはじめとする、心豊かな児童の育成。

③本会の組織活動の一層の充実。今後、埼葛退職校長会の皆様に御指導・御支援を賜りながら、各市町小学校長会及び埼玉県公立小学校長会や関係機関・団体と連携を密にして、管内小学校教育のさらなる進展を図ってまいります。

中学校教育の現状と課題

埼葛中学校長会

会長 安田 公紀

県学力学習状況調査をふまえる学向上への取組は、喫緊の最大の課題です。それに加え、社会の急激な変化に伴い学校教育の課題も大きく変化しています。対教師暴力等、生徒指導に苦慮する状況が少なくなつた一方で、新たな課題に直面しています。

いじめ問題や不登校問題は、引き続き大きな課題となっています。その他、特別な配慮を要する特別支援教育の充実、性的マイノリティー、熱中症予防等の健康指導、貧困、生徒数の減少や一人親の家庭の増加と課題は複雑化・多様化しています。特に、暴力やネグレクト等の児童虐待への対応も増え、児童相談所や行政機関との連携協力が欠かせない時代です。

また、諸外国では教職員の業務は授業に特化していますが、日本では生徒一人ひとりを総合的な理解しながらきめ細かな配慮の下に指導が行われるという特長があります。多様な行事、委員会活動の指導等、どれも欠かすことのできない大切な職務です。そのような状況の中で、部活動ガイドラインが示される等、働き方改革は喫緊の課題となっています。

さらに、地域社会の希薄化も進む中、社会変化に応じた教育も重要な視点です。特にコミュニケーション・スキルは、地域人材を生かす住民とともに歩む学校づくりに欠かせない方策です。

今後も埼葛中学校長会は、意思疎通を充分に取り合い、学校経営を進めてまいります。ご指導ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。

部 会 報 告

福利厚生部

部長 山下 浩

一、期日 一〇月二七日(日)

二、研修テーマ 武蔵野の面影残す「神代植物公園」と「新撰組のふるさと歴史館」を訪ねて

三、参加人数 三〇名

四、研修内容

春日部駅西口をバスで出発。最初の見学地「神代植物公園」へ向かいました。

武蔵野の面影を残す神代植物公園は、昭和三六年に都内唯一の植物公園として開園されました。

園内に入ると、約四五〇〇種、一〇万株の植物が私たちを迎えてくれました。

記念写真撮影後、自由行動になり、園内の秋バラをはじめ多くの花を見ることができました。特に大温室内では、ベゴニア、洋ラン、ハイビスカスの色の美しさ・鮮やかさに感動を覚えました。

昼食は、植物公園と隣接する深大寺参道沿いの店で、名物の蕎麦を頂きました。その後、深大寺周辺を自由散策し買物を楽しむことも出来ました。

最後の見学地は「新撰組のふるさと歴史館」です。

館内に入ると、最初に地元ガイドさんから新撰組の歴史的な動きについて、フロアーに描かれている「甲州道中宿駅図」等を使って説明と展示資料で分かりやすく解説していただきました。その後、各自で新撰組を中心に編集されているビデオや展示資料等を自由に見て回りました。おかげで、興味ある資料をじっくり読むこともできました。



(文責 中村 孝)

今回の研修では、武蔵野の自然にふれたり、新撰組に対する知識を深めたりと、充実した一日を過ごすことができました。お知らせをせし、実施報告とさせていただきます。

研究調査部

部長 岡島 正男

埼玉県退職校長会では、令和元年度も「再就職・待遇に関する実態調査」を実施します。校長退職後の再就職・待遇の実態を把握し、会員福祉の増進に資するとしていきます。

埼葛研究調査部でも、県の調査にあわせて、「社会貢献活動実態調査」を平成二〇年から実施しています。

調査の目的として会員各自の社会貢献活動や趣味や特技を生かした個人的な活動を集約し今後の活動に役立てて欲しいという願いからです。

しかし、現在退職時に年金が支給されなくなつたために生活資金の確保がどうしても優先されるようになり、会員の意識の変化も見て取れるようになりました。

調査対象は埼葛の新会員二七名です。九月第一回部会を開き調査内容を検討し調査用紙を郵送しました。

一二月調査結果を協力して下さい。つたみなさんへ配布する予定です。

(文責 小澤 勇)



ぶるとね

吉川市で活躍した 上條さなえさんについて

山田 陽一

吉川市は人口約七万人である。平成二四年に開業した吉川美南駅近くには新築マンションが立ち並び、美南小学校は児童数千人を越す。また、近くに中学校が建設され令和二年度に開校予定である。

吉川で活躍されている人は、戦後まもなく埼玉県知事になった大沢雄一氏をはじめ、最近ではサッカーの中澤佑二氏、元プロレスラーの北斗晶氏、順天堂大学医学部教授の小林弘幸氏などTVで活躍している人も少なくない。ちなみに小林医学部教授は、本会会員の小林次男先輩の息子さんである。

その中で、今回は上條さなえ氏を紹介したい。上條氏は児童文学作家であり、昭和六三年から一一年間、吉川市児童館「ワンダーランド」の館長を、平成一四年から四年間、埼玉県教育委員会の委員や委員長を務められた。

上條氏は東京経済大学経済学部を卒業後に小学校の教員を経て、昭和六二年（三七歳）に、毎日新聞社の小さな童話大賞を受賞して児童文学作家としてデビューされた。受賞作



「さんまのマーチ」を書かれた頃の上條さなえさん

はこの体験を綴った自伝本である「十歳の放浪記」を出版し話題となり、テレビドラマにもなった。

平成二一年にはNHKで、「私が子どもだったころ」という番組で少女時代の体験談を自ら語りつつ、それを基にした再現ドラマが放送された。

現在は、沖縄県に移住して、「月と珊瑚」を出版。沖縄は子供の貧困率が高いことを知ったそうなので、自らの経験と重ねてしまうそうである。

沖縄の企業は規模が小さく、本土から参入する企業に追いつけないのが現状で、収入も地場産業並みとのことで教育の重要性を再認識されている。また、この度の首里城の火災についても、嘆いている。